



ペーロン

会場地 : 相生市

競技紹介

ペーロン船と呼ばれる木造船に艇長^{ていちょう} 1名、舵取^{かじとり} 1名、太鼓^{たいこ} 1名、ドラ 1名、漕ぎ手^こ 2 8名の計 3 2名が乗り組み、漕ぎ手は櫂^{かい}を持ち、ドラと太鼓の音に合わせて漕ぎ、その速さを競います。

ペーロンは、中国の戦国時代に楚の国運の回復に尽力していた屈原^{くつげん}の死を悲しみ、人民が、「ちまき」を作って川に投げ、龍船^{ばいるん}（白龍）を浮べて競漕し、その霊をなぐさめたことが起源といわれています。

日本へは1655年に伝来したといわれています。数隻の中国船が長崎港を訪れた際、強風のため出航できなくなり、海神をなぐさめて風波をしずめるためにこの「ペーロン」競漕を港内で行いました。これを長崎の人達がとりいれて競漕を行うようになり、同地の年中行事の一つとなって今日に及んでいます。

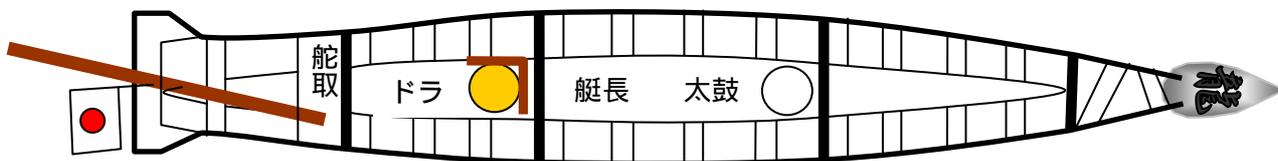
相生でペーロン競漕^{きょうそう}が始まったのは1922年で、長崎出身の播磨造船所（現在のIHI：石川島播磨重工業株式会社）従業員によって始められました。終戦の年までは毎年5月27日の海軍記念日に行われていましたが、1963年からは現在のように、「相生ペーロン祭」の海上行事として、毎年5月最終日曜日に盛大に行われています。



競技方法

1 競漕 4 チーム男女別で、往復 6 0 0 m のコースで競います。

艇長 1 名 舵取 1 名 太鼓 1 名 ドラ 1 名 漕ぎ手 2 8 名



競技場の概要

【会 場】

相生湾特設会場

往復600mの特設会場を設置して実施します。



相生ペーロン祭は、播州地方に初夏を告げる一大イベントとして毎年5月の最終日曜日に開催されています。

ペーロンはそのメイン行事として相生湾特設会場にて竹竿によるコース作りをし、300mの直線を折り返し600mのコースで行われています。

毎年約70チームが参加し、異国情緒あふれる海上絵巻を繰り広げています。



写真は相生ペーロン競漕の風景